

平成 20 年 6 月 10 日
パリ産業情報センター
駐在員 社本 朗

一般調査報告書

ドイツで愛知県知事が中部国際空港の PR と COP10 愛知・名古屋開催誘致活動を実施

神田愛知県知事は 5 月 26 日から 31 日にかけて、ドイツで中部国際空港の PR と COP10(生物多様性条約第 10 回締約国会議)名古屋開催誘致活動を行いました。

中部国際空港の利用促進として貨物輸送を行うエアロジック社、大手航空会社ルフトハンザ社を訪問して、貨物便の就航や定期便充実を依頼するとともに、日本の中央に位置する空港の PR を中部国際空港(株)平野取締役会長とともに行いました。

続いて COP9(生物多様性条約第 9 回締約国会議)に参加し、2010 年開催の COP10 の愛知・名古屋開催を名古屋市長、名古屋商工会議所会頭、中部経済連合会会長、愛知県議会訪欧団等とともに PR しました。

COP9 会議最終日の全体会議では次回 2010 年での同会議の愛知・名古屋開催が決定し、決定後、愛知県知事は「当地域が地域環境の分野において世界のフロントランナーとしての役割を担うことであり、この上ない意義がある(抜粋)」とコメントしました。

< 中部国際空港エアポートセールス >

中部国際空港は 2005 年(平成 17 年)2 月 17 日に開港した第一種空港で、愛称は「セントレア(Centrair)」として親しまれています。

24 時間運用可能な空港としてデビューし、総面積 470ha、3,500 メートルの滑走路 1 本、スポット数 58 の規模を誇り、愛知県知多半島の常滑市沖に中部圏の航空需要に対応する新しい海上空港として建設されました。

現在、国際旅客便は 31 都市、週 341 便、国際貨物便は週 30 便が就航しています。

今回のミッションの訪問先の一つとしてドイツ・ライプチヒを訪れ、2007 年 9 月に航空貨物大手のルフトハンザ・カーゴ(Lufthansa Cargo)社と DHL エクスプレス(DHL Express)社の各 50%の出資で設立された「エアロロジック(AeroLogic)社」とのミーティングを実施しました。

同社はボーイング 777 貨物機のリースを受けて 2009 年 4 月から運航を開始し、平日は DHL エクスプレスの荷を中心に、週末はルフトハンザカーゴの荷を中心に営業を行うことを計画しています。

2010 年には日本へのフライトも計画しており、フライト先として中部国際空港も有望な候補の一つであることが同社社長から表明されました。

同社は今後、コスト面の検討に加えて、フライト先空港がもつ様々な機能や使い勝手の良さを長期的な視点から検討していく予定です。

同社に対して、神田愛知県知事は地元地方公共団体として中部国際空港の活動への全

面的な支援とサポートを一貫して行うことを約束しました。

対応した同社社長からは、中部国際空港会社(株)からの提案は非常に興味深かった、また空港会社だけでなく、地元地方自治体からのサポートの表明は非常にありがたいとの発言がありました。



エアロロジック(AeroLogic)社とのミーティングの様子

< COP10 愛知・名古屋開催誘致活動 >

COPとはConference of the Partiesの頭文字を取ったもので、「生物の多様性に関する条約締約国会議」を意味します。

現在、この条約には日本を含め190の国と地域(2008年1月現在)が締結しています。

COP10は第10回締約国会議を指し、締約国が集まり地球上の生物の多様性の保全を図るなどの国際的な枠組みを決定する環境分野では最大級の国際会議です。

毎回約3週間の開催期間中に約4,000名の国連関係者、各国政府関係者、NGOなどが集まります。

愛知県・名古屋市は、自然と共生する日本の姿を世界にアピールできる地域、また「愛・地球博」の理念と成果を継承する地域として、2006年(平成18年)秋ごろから日本政府と調整を続けながら、会議の誘致活動を行ってきました。

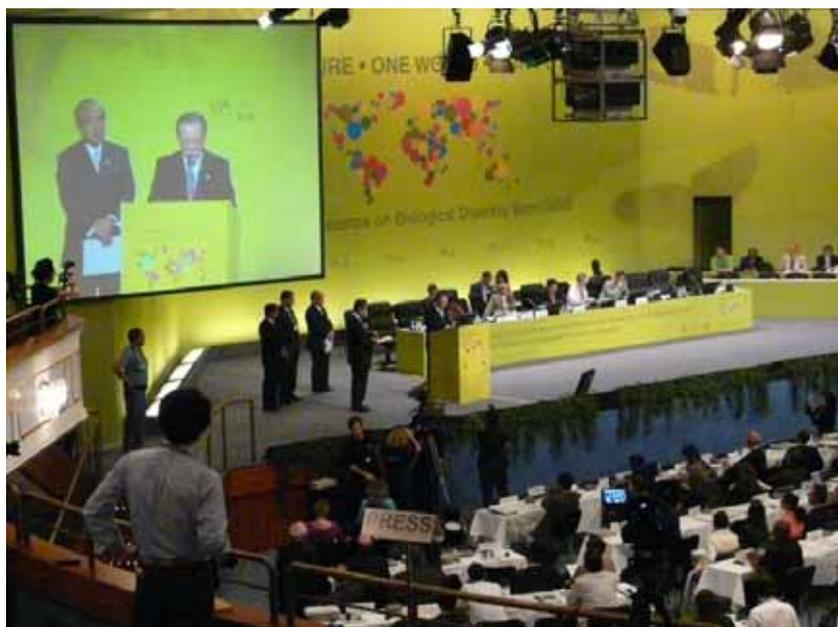
今回の5月12日から5月30日までドイツ・ボンで開催されたCOP9(第9回締約国会議)では、2002年のCOP6で採択された「2010年までに生物多様性の損失速度を著しく減少させる」という2010年目標の達成のため、農業や森林の生物多様性、侵略外来種対策等における各国の取組状況が報告されたほか、気候変動やバイオ燃料生産、遺伝子組み換えが生物多様性に与える影響についても議論が行われました。

会議最終日である5月30日の全体会合では、次回締約国会議COP10を愛知・名古屋地域で開くことが決定され、日本政府の代表として鴨下環境大臣がCOP10の成功のために努力していくことを約束するコメントを発表しました。

また神田愛知県知事、松原名古屋市長も開催決定の喜びと次回開催への意気込みについて、会合に出席している各国代表者に対してコメントしました。

会議出席者の中には次回開催地が愛知・名古屋であることを知って、「2005年愛知万博

の成功を生かして、2010年 COP10 を盛り上げてほしい。」との声も聞かれました。



COP10 愛知・名古屋決定
時の様子

< 愛知・名古屋の可能性 >

私はジェトロパリ((独)日本貿易振興機構パリ事務所)と協力しながら、愛知県のビジネス環境をフランスやドイツ企業等に PR し愛知県への外国投資を促進する仕事を業務の一つとして行っていますが、時々感じる問題が「愛知・名古屋」の地域名・都市名の知名度の低さです。

幸い2005年に愛知万博を成功させ、中部国際空港からヨーロッパへの直行便もパリ、フランクフルト、ヘルシンキとあり、トヨタを始めとする地元産業が活発のため、以前と比べると知名度は向上している実感はありますが、「愛知・名古屋」が持つ経済・文化・観光の実力と潜在性を考慮すると物足りないものがあります。

今回の中部国際空港の PR、COP10 誘致活動を通して、愛知・名古屋の持つ産業面や環境面での取り組みでの強みをドイツの企業や COP9 の参加者に PR することができました。

またこの活動が近い将来、中部国際空港の路線の充実や環境に関する大国際会議開催につながり、当地域の持つ強みを生かす例として、世界への大きな PR の機会となることを強く感じました。

このような活動が当地域の知名度を向上させ、知名度の向上が世界各地から当地域への興味を呼び醒ますという良いサイクルを生みだし、愛知・名古屋と世界との交流がさらに促進されることを期待したいと思います。